

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT
2015.1. VOL.26

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

大学憲章・名市大未来プランを読み解く

大学の基本理念や行動指針となる「大学憲章」、本学の強みを活かしながら名市大の15年後の明るい未来を築くための「未来プラン」が、2014年10月28日の開学記念日に制定された。憲章委員会のメンバーとして参画させていただいた際の議論をふまえ、大学憲章と未来プランを医学研究科／医学部の視点から読み解いてみた。

(大学憲章・未来プランは、<http://www.nagoya-cu.ac.jp/1000.htm>をご参照ください)

大学憲章の特徴 (どの大学憲章にもある“大学に求められる一般的事項”は省略し、本学憲章の特徴のみを取り上げてみた)

「研究」では、気概ある探究者としてトップレベルの研究を実践し、「知の創造の拠点」となることを宣言している。
「教育」では、温もりのある教育を実践し、次世代をリードできるバランス感覚に優れた人材の育成を挙げている。
「社会貢献」では、名古屋市のシンクタンクとしての機能を果たすとある。このことは本学の宿命でもあるが、大学人にとって研究教育成果の還元が実感しやすい部分ともなるだろう。
「大学病院」が憲章の一項目にあることが最大の特色である。安全で最高水準の医療の提供、新たな医療の確立に邁進、専門教育の充実と、「学び続ける医療人」の育成がキーワードであろう。
「大学運営」では、公立大学としての崇高な自主・自律の精神が求められている。市の理解を得つつ、健全な財政運営と施設環境(研究／教育／大学病院)の整備が進められるであろう。



大学憲章

未来プラン ①誇りを持ち、愛される名市大、②名古屋市と共に発展する名市大、③戦略性を持って世界に飛躍する名市大、④経営基盤が安定した名市大、のビジョンからなる。医学研究科／医学部の特徴・強みとなる、“明るい未来へ向けたアクション”について取り上げた。

「愛校心の醸成」では、瑞友会をはじめ本学関係者とのネットワークを生かした戦略的・機動的な情報発信を行い、愛着が感じられる大学となる環境づくりが行われよう。
「世界をリードする大学への発展」では、全学的な研究推進機関の設置、戦略的な外部資金の獲得、共用研究施設・設備の充実を通じ、世界大学ランキングの上位を目指していく。
「名古屋市との連携強化」では、市窓口の大学政策室との意思疎通をより密にし、病院局、健康福祉局や教育委員会(高大連携)などとの連携強化を通じ、市政への貢献が求められる。
「リカレント教育の充実」では、学び直しプログラムの充実化、地域と育む未来医療人「なごやかモデル」の成功、「すこやかなごや」事業の実施、地域社会を担う優れた医療人の育成(大学病院での研修など)が進められている。
「附属病院」では、組織体制の充実による医療提供体制の強化、病院施設の再整備、新しい医療の創出、東部・西部医療センターとの連携強化による市全体の医療機能の充実、が進むであろう。
名市大ネットワークを最大限に生かし、戦略的に“大学の使命である人材育成”と“名古屋都市圏の医療の充実”に繋がることを期待したい。



未来プラン

(文責:脳神経生理学 教授 飛田 秀樹)

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

連携病院

連携病院—JA愛知厚生連 海南病院

海南病院は、愛知県海部医療圏に加え、三重県北勢地区北部、岐阜県南端にまたがる広域診療圏において、高度急性期を中心に医療提供をまいりました。海部医療圏の基幹病院として5疾病5事業（へき地医療を除く）及び在宅医療への取り組みを継続し、また診療機能を向上させていく必要から、増改築棟の老朽化を鑑み、平成22年度より全面改築工事に入り、平成25年7月に第I期診療棟を竣工しました。この診療棟は、一連の施設整備の中でも当院が地域に果たす責務として最重要と位置付けていた高度救急センター、救急専用病棟を含んでおり、平成25年9月より正式に、救命救急センター及び地域中核災害拠点病院の指定を受けることができました。これにより海南病院は、総病床数553床、32診療科および救命救急センターをはじめ12のセンター機能を有し、稼働することができています。

救命救急センターの開設とともに、救急車の受入は同時に5台、年間8,000台の受入れが可能となります。実際、初年の一年間の救急車の受入れは約7,000台となりました。そして、いよいよ平成27年3月に第II期診療棟の竣工を迎えることになります。病院機能としては完成することとなり、この診療棟の完成により高機能外来、緩和ケア病棟、無菌病室などが整備され、更なる診療機能の向上が得られ、新しい海南病院に生まれ変わります。

この間、機器関連整備として、平成25年1月より、全面電子カルテ整備を行い、その後高度医療機器として平成25年4月に内視鏡下手術支援ロボットda Vinci、また平成25年9月には3.0T-MRIを導入しました。これら最先端医療機器は地域の財産と考えますので地域に十分貢献できますよう努めてまいります。さらに、地域完結型医療を求め、地域連携を推進すべく、海南病院Sun-senネット（電子カルテ参照機能）を構築し、地域の医療機関との、緊密な連携により、より良き医療を提供してまいります。今後とも、瑞医の皆様各位のご教授、ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の今後のますますのご発展を祈念致します。

病院長 山本 直人



海南病院 外観



救命救急センター 初療室



内視鏡下手術支援ロボットda Vinci



平成28年 病院完成図

教育

名古屋市立大学解剖感謝式

解剖感謝式は、年に一度、医学教育のためにご献体下された方々への感謝の意を表すものであり、医学部では、重要な催事の一つです。平成26年度の「名古屋市立大学解剖感謝式」は、12月2日（火）午後2時より、川澄キャンパスの「さくら講堂」において執り行われました。式には、ご遺族の方々、公益財団法人不老会理事長ならびに役員の方々、郡学長をはじめとする教職員ならびに附属病院の方々、系統解剖実習中の医学部2年生、看護学部学生など、多数参列いたしました。

途中、学生を代表して、医学部2年生の植田旭美さんが感謝の言葉を述べ、系統解剖と病理解剖とを合わせて被解剖者178柱のご芳名が奉読されました。そして、参列者全員で献花を行い、最後に浅井医学部長が御礼の言葉を述べ、厳粛な内に終了いたしました。

昨今、医療安全の見地から、医療技術のトレーニング等のためにご献体を使わせていただき、いわゆるサージカルトレーニングの導入が厚生労働省を中心に進められております。われわれ医療従事者は、故人に対する感謝の念と医学に対する決意を新たにする必要があります。

文責：機能組織学 教授 鷗川 真也



参列者全員で献花をおこないました



Aki Kato

加藤 亜紀(かとう あき) 視覚科学分野(助教)

専門:網膜硝子体疾患

2009年9月から大学で勤務しています。加齢黄斑変性を中心に網膜硝子体疾患について、臨床研究、基礎研究を行っています。網膜硝子体疾患は、慢性かつ根治が困難な疾患も多く近年では、手術治療の他に、薬物治療も重要な役割を果たすようになってきており、それらを組み合わせた治療が求められます。中でも加齢黄斑変性は罹患期間が長く、いろいろな治療の選択があります。既報と、これまでの経験を生かして、いま目の前にいる患者さんにとって一番いいと思われる治療法を考える、臨床から得られる情報を十分に生かして、病態解明をめざし、10年後20年後の新たな治療法の可能性を探る、双方の視点で視覚科学という学問に携わっていきたいと思っています。

近年の論文: *Ophthalmologica*. 2014 Nov 19. [Epub ahead of print], 日眼会誌. 2014;118:495-501. 臨床眼科. 2014;68:1261-67, *Taiwan J Ophthalmol*, 2014; 4:3-8, *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 2013;54:1740-9.



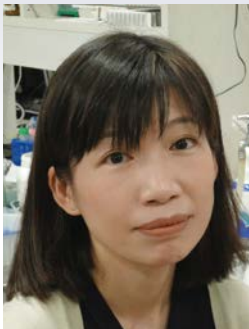
Takayoshi Kanematsu

兼松 孝好(かねまつ たかよし) 地域医療教育学分野(講師)

専門:医学教育学、診断推論学、総合内科学、老年医学、消化器・肝臓学

地域医療教育学は地域医療に従事できる総合医の育成を主な目的として、2009年に新設された新しい教室です。総合医とは近年提唱された新たな医師のカテゴリーであり、従来の臓器別診療に従事する医師とは異なり、横断的な診断能力と総合的な統合力などを持って、より全人的な医療を提供する医師を指します。総合医は必要性の高さとは裏腹に、育成の方法に過去の蓄積が少なく、またどのような要件を満たせば優れた総合医と定義できるかも確立されていません。その育成には、総合医の定義に基づく達成目標の立案と学生および若い医師に対して安定した教育カリキュラムが必要と考えられ、最近では主にその教育手法の開発に力を入れて研究を続けています。

近年の論文: *J Am Geriatr Soc*. 2013 Oct;61(10):1828-30, *J Gastroenterol*. 2011 Feb;46(2):269-76 *Pancreas*. 2010 Nov;39(8):1173-9



Keiko Shinjo

新城 恵子(しんじょう けいこ) 遺伝子制御学分野(助教)

専門:エピジェネティクス、肺がん

細胞の核内に存在する遺伝子。どの遺伝子を使うかを決めているのがエピジェネティクスです。がんではエピジェネティクス異常が多く存在し、疾患の発症に関わっています。特にDNAメチル化異常はがんの早期から認められるため、診断マーカーとして有用であると考えられています。私たちはこれまでに難治性がんDNAメチル化診断マーカーセットを確立してきました。臨床での応用を目指し、血液中の遊離DNAでこれらの異常メチル化を検出しがん診断を可能とする高感度検出法の開発を行っています。治療の面でもエピジェネティクス治療薬は多くの遺伝子発現に影響を与えるため、注目されています。新しい治療薬を患者さんに届けることを目標に、治療薬の開発も行っています。

近年の論文: *Cancer Res* 2009; 69(23):9073-82, *Carcinogenesis* 2012; 33(7):1277-85, *Cancer Res* 2013; 73(14):4559-70 *Gastroenterology*, 2014; 146(2):562-72, *Oncogene* 2014 Apr 28;0



Retsu Mitsui

三井 烈(みつい れつ) 細胞生理学分野(助教)

専門:生理学、形態学

血管や内臓の平滑筋における自発収縮機構および自律神経支配について研究しています。微小循環においては細動脈の収縮・拡張が血流調節を担っていますが、一方で細静脈の積極的な収縮機能については不明な点が多く残されています。最近の私たちの動物実験では、膀胱や大腸や胃の細静脈が周期的に自発収縮することが明らかになっており、中空臓器の伸展時にも血液を確実に臓器外へ排出し微小循環のうっ血を防ぐ機構であると考えています。これらの細静脈では交感神経による収縮と一次求心性神経による拡張もみられました。従来考えられていたよりも、細静脈は積極的に微小循環の制御に関わっていることが示唆され、さらなる詳細な機構の検討をすすめています。

近年の論文: *Pflügers Arch Eur J Physiol* (2014) in press, *Br J Pharmacol* 170:968-977 (2013), *Histochem Cell Biol* 140:189-200 (2013), *Br J Pharmacol* 167:1723-1736 (2012)

新任教授のご紹介

口腔外科学分野 — 渋谷 恭之 教授

2014年7月1日付で感覚器・形成医学講座口腔外科学分野教授を拝命しました渋谷恭之(しぶややすゆき)と申します。私は1989年に九州大学歯学部を卒業後、神戸大学医学部口腔外科学教室に入局し、1990年より兵庫県立成人病センター(現 兵庫県がんセンター)、1992年には神戸大学大学院に進学し、医学博士の学位を取得致しました。その後は神戸大学病院を中心に勤務を行い、5年間は神戸大学手術部副部長として手術部運営にも携わりました。

診療ではこれまでに口腔腫瘍、インプラント、顎関節疾患や顎変形症などのいわゆる口腔外科学の分野に加えて、障がい者歯科診療や周術期口腔衛生管理等、幅広い領域を専門としてまいりました。また研究では末梢神経再生、インプラント(人工歯根)に用いる人工骨、顎切除後の咀嚼機能評価、抗癌剤による骨髄抑制中の歯性感染症などをテーマにまいりました。

今後はこの地域での口腔外科医の第一人者を目指し、まずは手術件数の増加を図りたいと存じます。また多職種医療チームの一員として口腔ケア等にも積極的に取り組んでまいりたい所存です。そのためには学内の医師、看護師、薬剤師はもちろんのこと、地域の医師会、歯科医師会等とも密に連携を取りたいと存じますので、今後も皆様方からのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



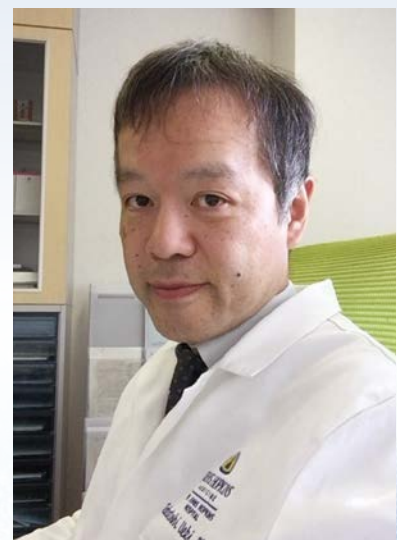
渋谷 恭之 教授

統合解剖学分野 — 植木 孝俊 教授

この度平成26年7月1日付で、統合解剖学分野の教授を拝命致しました。医学部では、解剖学講義、系統解剖学実習を主に担当させていただきます。

私は平成5年に筑波大学大学院医学研究科を修了した後、国立精神神経センター等で脳内グリア細胞に関する生化学的研究に従事し、米国ジョンズホプキンス大学への留学、米国NIHでの勤務を経て、前任地浜松医科大学より本学に参りました。NIHと浜松医科大学では、PETとMRIを用い、γセクレターゼ等の精神神経疾患病態生理に与る病態プロテアーゼの脳内活性動態の生体イメージングを手掛け、以来、自閉症等の発達障害患者脳における神経免疫系の病的賦活に掛かるin vivo分子イメージング研究を軸に据え、新たなPETトレーサー、MRIプローブ等の創製に当たっております。本学とのご縁は古く、大学院在籍時に早逝された分子研加藤泰治教授の研究室で神経科学研究の手解きをいただいたことに始まります。

本学では、これまでの解剖学教育・研究の伝統を継承、発展するとともに、郡理事長が力点を置かれる「社会貢献」を、手術手技研修、計算解剖学による橋渡し教育・研究により実現する所存です。本学の教育、研究、診療におけるわが国でのプレゼンスを高めるべく教室を挙げ努力して参りますので皆様のご指導・ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



植木 孝俊 教授

02 時の人 People in the news

新任教授のご紹介

免疫学分野— 山崎 小百合 教授

この度2014年12月1日付けで、名古屋市立大学大学院医学研究科免疫学教室の教授を拝命致しました。

私は1991年に東京医科歯科大学医学部を卒業し、皮膚科大学院を終え、専門医取得後、京大坂口志文研で、制御性T細胞の基礎研究を始めました。2001年に渡米し約8年間、ロックフェラー大Ralph Steinman(2011年ノーベル医学賞受賞)の下、樹状細胞による抗原特異的制御性T細胞の増殖誘導の仕事に専念しました。

名古屋市大には2012年4月より加齢・環境皮膚科学准教授としてお世話になり、これまで自分が行って参りました制御性T細胞の研究を続けさせていただきました。森田明理教授、教室員の先生方のお力添えで、今後も臨床を続けつつ、研究との橋渡しのできる貴重な環境で仕事をさせていただくことになり、心より感謝申し上げます。

名古屋市大の免疫学を発展させ、研究を広い臨床分野にフィードバックし、患者様の治療に貢献する事を目指して参ります。また女性教授として、女性医師のサポートにも力を尽くしたいと存じます。今後どうぞよろしくご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

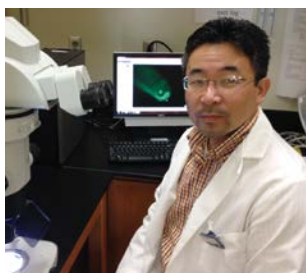


山崎 小百合 教授

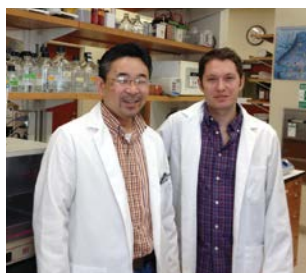
OBのご紹介

アメリカ・フロリダ州立大学医学部 准教授 加藤 洋一 先生

私は現在フロリダ州立大学医学部で自分の研究室を運営しています。名古屋市立大学大学院医学研究科で1997年に学位を取得した直後に渡米し、米国ボストン小児病院でポスドクとして研究に打ち込んだ後、2003年よりフロリダ州立大学医学部のファカルティとして研究、教育に従事しています。フロリダ州立大学はアメリカンフットボールの強豪校で創立150年以上の歴史を持つ大学です。私の勤務する医学部は近年のフロリダ州の高齢者人口の増加に伴う医師不足を補うために2002年に創設されました。私達の研究室ではシグナル伝達経路により制御される発生のメカニズムを解明することを目指し研究を行っています。現在は特にシグナル伝達経路による繊毛形成の制御に焦点を当てています。繊毛はヒトのほぼ全ての体細胞に存在する細胞小器官で、繊毛の機能異常は多発性嚢胞腎、内臓逆位、水頭症などの重篤な先天性異常を含む繊毛病を引き起こします。私達は繊毛病の原因となる遺伝子の単離や発症メカニズムの解明に貢献出来る研究を目指し日夜研究に勤しんでいます。今後は基礎研究から得られた成果を如何に臨床の現場へ還元していくかということを念頭に置き研究を進めたいと思っています。



加藤 洋一 先生



研究室にて



フロリダ州立大学医学部



アメリカンフットボールの強豪校を象徴する銅像

市大病院薬剤部

すべての病棟に薬剤師を配置

今、病院薬剤師に期待されていることは、お薬を調剤・調製することだけでなく、積極的にチーム医療に参画し、薬の専門家として医療に貢献することです。そのような中で平成24年4月に病棟薬剤業務実施加算が診療報酬として認められ、病院薬剤師の活動場所が大きく広がりました。市大病院薬剤部も数年前から各病棟に担当薬剤師を配置し、加算が取れるよう準備を進めてまいりましたが、加算を取るにはすべての病棟に週20時間以上薬剤師を配置する必要があり、現状ではその要件を満たすことができていません。そこで、すべての病棟に薬剤師を配置できるよう名市大薬学研究科の協力を得て、薬剤部に「特任助教」の公募が認められました。来年度はすべての病棟に薬剤師を専任させる見通しが立ち、教育・臨床研究も充実させることができると思います。薬剤師の病棟配属が単に加算を取るためだけでなく、多職種連携のメリットを十二分に発揮できる体制の構築につながればと思っています。

薬剤師外来をスタート

平成24年度から運用されている東棟（喜谷記念がん治療センター）は、外来化学療法室が30床に増床となり、抗がん剤の曝露が少なく人にやさしい環境を整備し、正確で安全な化学療法の確立を目指して、陰圧アイソレーター（ケモシールド®）および抗がん剤自動調製装置（サイトケア®）が導入されました。近年、外来患者に経口抗がん剤が多く使われるようになり、なかには強い副作用により緊急入院を余儀なくされる例も増加してきています。そこで、来年度から経口抗がん剤治療を受けている患者さんに対し、薬剤師が副作用の説明、相談に応じることができる薬剤師外来を開設しようとしています。東棟の化学療法室の診察室の一室を使い、医師からの予約があった患者さんにがん専門薬剤師が面談を行います。今後、服薬アドヒアランスの向上や副作用防止の一策として薬剤師外来がうまく機能することを望んでいます。

後発医薬品の数量ベース60%導入を目指して

平成26年度の診療報酬改訂でDPC制度に係る機能評価係数Ⅱに「後発医薬品係数」が新設されました。これまで、積極的に後発医薬品に切り替える意思を示さなかった大学病院でも経営的な側面から切り替えざるを得ない状況になりました。当院でも、切り替えに厳格な基準を設け、数量ベースで60%を目指して、品質・供給面を担保しつつ診療科、製薬メーカーの理解を取りながら逐次後発医薬品への変更を検討しています。是非、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

入院前の術前中止薬チェック

入院支援センターにおいて、薬剤師が入院当日に患者さんと面談して、持参されたお薬の内容、用法用量などを確認しています。さらに、医師から依頼があった場合は、入院前にも服用中のお薬やサプリメント等を把握し、術前中止薬に該当するものがないかをチェックしています。ただ、患者さんにとって、なぜ服用中の薬を中止しなければならないかが理解できておらず、中止薬の服用を継続し手術が中止になってしまう例がなくなっておりません。薬剤部としては今まで以上に入院前の服薬相談を充実させていこうと考えていますのでご紹介よろしくお願いいたします。

文責：薬剤部 部長 木村 和哲（臨床薬理学 教授）



喜谷記念がん治療センター 抗がん剤調製室



薬剤部のメンバー

（上左から）木寺、米谷、浅野、近藤（祐）、片岡、竹本、塩田、服部（隆）、松本、早川（智）
（中左から）外ノ池、外海、加藤（順）、小嶋、平澤、加藤（弘）、鬼頭、羽藤、田代、榎原
（下左から）加藤（樹）、水野、鯉部、木村、江崎、近藤（勝）、黒田

学生生活

日本平滑筋学会総会で発表しました!

この度、2013年度の基礎自主研修において行った研究の成果を、2014年8月に神奈川県横浜市で行われた第56回日本平滑筋学会総会にて、「モルモット膀胱排尿筋の自発活動電位に対するK⁺チャンネル開口薬の作用」という演題で口頭発表する機会を頂きました。

発表会場においては全国の先生方や学生による様々な研究発表を聴くこともでき、少なからず刺激となっただけでなく、自分の行った研究を異なる角度から捉え直す有意義な機会となりました。

基礎自主研修を通して、微力ながらも基礎医学の研究に参加できたこと、そして学会において口頭発表できたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。今後、それらを通して得たことを活かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の学会発表にあたり多大なるご支援を賜りました多くの先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

M4 高木 裕昭



発表中の様子



救急救命サークルMeLSC

MeLSC(Meishi Life Support Club)は、約2年前に発足以来、「名市大の学生および地域の方々みんなが一次救命処置を行えるようになること」「学生同士で学びあい、医療系学生として知識や経験を深める」ことを目標として活動しています。

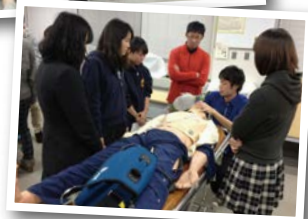
サークルメンバーの声

M3 松元 由希さん

私たちは夏休みの約1週間を利用し、名市大の学生および教職員の方々を対象にBLS講習会を行いました。名市大に所属するすべての人が、目の前で倒れた人の救命処置ができるようになるため、今後も講習会を精力的に行っていきたいです。

M3 平山 陽太さん

ACLS、災害医療など幅広い内容を扱う月一回の勉強会や、他大学の救急サークルと合同で行うワークショップでは、学生同士が交流し学びあうことで知識や将来の医療者としての倫理観を学ぶことができます。これからも人とのつながりの中で、主体的に医学を学んでいきたいです。



活動の様子

桜山の懐かしのお店紹介—第17回「天海」さん

中国料理「天海(TENKAI)」さんを訪ねてみました。

昼食時は、日替わりセット、ラーメンセットが、値段、ボリューム、味の三拍子そろっており、市大教職員や学生、地元のお客さんににぎわっています。そのため、時間帯によっては相席を覚悟しなければなりません。

店の外の食品サンプルを眺めていると、気になるメニューがございます。「いつものヤツ」です。昼食時にはなかなか注文する気になれず、先日、夕方に訪ね、注文しました。本日のおすすめには、「海鮮おこげ」や「ハバネロラーメン」など、気になるメニューもありますが、迷わず「いつものヤツ」を注文。出てきたものは食品サンプルとは似つかない「豆腐と野菜のピリ辛旨煮」でした。早速いただくと、ピリ辛でクセになりそうな味でした。次は「海鮮おこげ」を試してみたいです。

事務室 M



いつものヤツ



平成26年度 医学教育等関係業務功労者表彰を受賞した 統合解剖学 本多 信彦さんにお話を伺いました

採用当初は、渡仲三教授(現名誉教授)の下で電子顕微鏡写真の処理、電顕資料作製や処理技術の開発が主でしたが、92年に献体業務を担当されていた須原技師の定年退職により、御遺体の処置だけでなく、献体団体である不老会のお世話や、御遺族との折衝など献体業務全般を担当することとなり、現在に至っています。

献体は、ほとんどの御遺族にとっては初めての経験であり、しかも気持ちの整理もつかない中で連絡いただかねばなりません。さらに献体受付時には、御遺族にとって辛い内容も聞かねばならない時もあります。言葉遣いはもちろんですが、できるだけ御遺族のお気持ちに寄り添えるよう気を配って対応しています。

また御遺族にとっては、献体に同意したものの、それが正しい選択であったかどうか迷われることも多々あります。「献体から遺骨返納まで」と題したパンフレットを作成し御遺族の理解を深める工夫や、御遺骨の返納時に「どのように解剖させていただいたのか」をできるだけ丁寧に伝えることで「ああ、やっぱり献体に同意して良かった」と感じていただけるように努めています。

現在は、従来どおりの解剖学実習だけでなく、御遺体を活用した「手術手技研修」など、新たな取り組みも各地で始められており、時代のニーズに合わせた御遺体の処置なども開発していかなければなりません。少しでも解剖学教育に貢献できることを願って、これからも業務に精進したいと思います。

最後に私がここまで勤めて来られたのも、解剖学両分野の加藤、田中、梶田技師の皆さんの協力と、先生方からの暖かいご指導のおかげです。紙面を借りてお礼申し上げます。



郡理事長よりお渡しいただきました



本多さんを囲んで
(左から三宅副理事長、郡理事長、本多さん、浅井研究科長、東事務長)

最新医学講座オープンカレッジ

平成17年度より始めましたオープンカレッジも来年度で10年目を迎えます。

本学の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を、市民の皆様を対象に解説してまいりました。これまでの延べ受講者数は2,423名(受講修了証発行数)にのぼり、毎年受講される方もいらっしゃいます。来年度の講義内容は未定ですが、今年度と同じく3期開催予定です。詳細は下記ホームページにて各期約1か月前に掲載予定です。是非ご関心のある方は受講してみてください。

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/opencollege.html>

名市大 医療・保健 学びなおし講座

2014年度学びなおし講座は、春期3科目(精神疾患、薬剤、免疫・アレルギー)、秋期3科目(急性期医療、発達障害、産産期医療)の計6科目を開講いたしました。受講者数は242名で、そのうち191名が受講修了証を獲得されました。

来年度(2015年)も、春期・秋期合わせて6科目を開講する予定で準備を進めております。開講科目詳細は学びなおし講座ホームページにて、3月上旬頃公開予定ですので楽しみに。

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/>

名市大 学びなおし



「急性期医療」実習の様子

ひとつこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は9月号です)

1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌：瑞医(ずい)
発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は平成27年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

我こそは
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務局 広報担当まで